

令和5年度 米子市美術館事業報告書

1 管理業務の実施状況

1 施設管理の充実

- (1) 毎日の館内・収蔵庫内の点検により、不具合の早期発見とともに空調関係の部品取替等を行い、収蔵作品の常に良好な保存維持管理に努めた。
- (2) 美術館周囲の日常的な点検及び除草作業等を行うとともに創作交流広場の樹木を剪定し、美観の維持に努めた。
- (3) トップライトからの雨漏りに備え点検及び修繕を行い良好な維持管理に努めた。
- (4) 男性用トイレにサンタリーボックスを設置した。

2 利用者サービスの向上など

- (1) 郷土作家の調査研究の成果として画家・現代美術家である井田幸昌による国内美術館における初個展「井田幸昌展 | パンタ・レイ -世界が存在する限り」を開催。国内未発表作を含む“Portrait”シリーズなどの代表作から最新の作品まで国内外のコレクションから約60点を紹介した。展覧会初日に、作家本人による見どころや制作秘話など様々な角度から語ってもらうトークイベントも開催した。好評につき、最終日にもギャラリートークを追加開催した。
- (2) 開館40周年を記念したコレクション企画展として、Ⅰ期「写真編」、Ⅱ期「版画編」、Ⅲ期「洋画編」、Ⅳ期「彫刻・日本画・書・工芸編」の4期に分け40年にわたる作品収集のあゆみを振りかえった。当館の誕生と成長をともにした作品を、収集経緯やエピソードをまじえて展覧し、受け継ぐべき郷土の優れた芸術を紹介した。
- (3) 米子市児童文化センターと共催しミュージアムスクール「テープでアート」「自然でつくってあそぼう」を開催。子どもたちがアートに親しむことのできる機会となり、完成作品を児童文化センターで展示した。
- (4) ミュージアムスクール「アートな散歩～淀江の史跡を巡る～」は昨年度に続き山陰歴史館に加え上淀白鳳の丘展示館とも連携し、フレイル予防にも役立つ“アート”と“歴史”を楽しめるウォーキングイベントとして実施。美術系と歴史系の館それぞれの専門性を活かし、3館の学芸員が美術や史跡、街の歴史のエピソードなどを解説した。他分野の財団施設と連携することで、事業が活性化し新しい利用者層の開拓につながった。
- (5) 様々なメディアを積極的に活用していくことを心がけ、新たにInstagramも開設するなど広報強化に努めた。
- (6) 令和3・4年度分の活動状況をまとめた年報第2号を刊行した。

2 事業の実施状況

事業名	開催日・実施期間	入場者・参加者数(人)	内容
展覧会事業			
<p>開館40周年記念 特別共催展</p> <p>「大広重展 ～東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界～」</p> <p>共催：米子市、米子市教育委員会、 新日本海新聞社</p> <p>関連事業：</p>	<p>4月7日(金) ～ 5月22日(月)</p> <p>会期中無休 [46日間]</p>	<p>11,922</p>	<p>浮世絵風景画の名手、歌川広重の名作《東海道五拾三次》を中心とした中右瑛コレクションによる浮世絵展。広重の《東海道五拾三次》55点全てを展覧。晩年の《五十三次名所図会》、葛飾北斎《東海道五十三次》(小判)とともに比較展示した。また《名所江戸百景》をはじめ、初期の美人画や貴重な肉筆画のほか、初代歌川豊国、国貞など名だたる絵師たちの「雪月花」など、あわせて全286点を紹介した。</p> <p>会場：第1～4展示室 観覧料：一般1,200(前売1,000)円、 小中高大生500円(前売・当日共通)、未就学児無料</p>
<p>講演会 「広重 東海道五十三次のミステリー」</p>	<p>4月8日(土)</p>	<p>(54)</p>	<p>会場：米子市立図書館多目的研修室 講師：中右瑛氏(国際浮世絵学会常任理事)</p>
<p>ギャラリートーク</p>	<p>4月8日(土)</p>	<p>(81)</p>	<p>解説：中右瑛氏(国際浮世絵学会常任理事)</p>
<p>学芸員によるギャラリートーク</p>	<p>4月6日(木) 4月15日(土) 4月29日(土・祝) 5月13日(土) 5月20日(土)</p>	<p>(249)</p>	<p>解説：青戸副館長兼主幹学芸員 4月6日は内覧会参加者対象</p>
<p>オリジナルコースタープレゼント</p>	<p>会期中 毎週水曜</p>	<p>(600)</p>	<p>各日先着100人にオリジナルコースタープレゼント</p>
<p>こどもの日小中高生無料開放日</p>	<p>5月5日 (金・祝)</p>	<p>(51)</p>	<p>こどもの日限定で通常観覧料500円のところ小中高生観覧無料</p>
<p>第62回米子市美術展覧会(市展)</p>	<p>6月9日(金) ～ 6月17日(土)</p> <p>会期中無休 [9日間]</p>	<p>2,106</p>	<p>市民から公募した7部門(洋画、日本画、書道、写真、工芸、彫刻、デザイン)298点を展示。今回からデザイン部門を新設した。 *初日開会式にて、リコーダークラブ たまごサンドとアップルティー(米子市音楽祭出演団体)による演奏披露、表彰式、審査講評を実施。 会場：全館 観覧無料</p>
<p>開館40周年記念 特別企画展</p> <p>「井田幸昌展 パンタ・レイ -世界が存在する限り」</p> <p>共催：米子市、米子市教育委員会</p> <p>関連事業：</p>	<p>7月22日(土) ～ 8月27日(日)</p> <p>[32日間]</p>	<p>5,875</p>	<p>「一期一会」をテーマに、絵画を中心に彫刻や版画など幅広い分野で創作活動を展開し、国内外で活躍中の井田幸昌(1990年日吉津村生まれ)にとって初めてとなる国内美術館での個展。国内未発表作を含むこれまでの絵画作品、立体作品に加えて、家族、友人、著名人をモチーフに描いた“Portrait”シリーズ、絵日記のように日々をつづった“End of today”シリーズなどの代表作から最新作まで65点を展覧。</p> <p>会場：第1～4展示室 観覧料：一般1,300(前売1,000)円、高校・大学生900(前売800)円、中学生以下無料</p>
<p>作家によるオープニングギャラリートーク</p>	<p>7月22日(土)</p>	<p>(238)</p>	
<p>作家によるトークイベント</p>	<p>7月22日(土)</p>	<p>(98)</p>	<p>講師：井田幸昌氏(本展出品作家) 会場：米子市立図書館多目的研修室</p>
<p>学芸員によるギャラリートーク</p>	<p>7月29日(土) 8月12日(土) 8月26日(土)</p>	<p>(118)</p>	<p>解説：喜多村調整官兼主幹学芸員</p>
<p>作家によるギャラリートーク(追加開催)</p>	<p>8月27日(日)</p>	<p>(290)</p>	
<p>作家によるサイン会(追加開催)</p>	<p>8月27日(日)</p>	<p>(123)</p>	

事業名	開催日・実施期間	入場者・参加者数(人)	内 容
<p>開館40周年記念 コレクション企画展Ⅰ 写真編</p> <p>「芸術写真」</p> <p>共催：米子市、米子市教育委員会</p> <p>関連事業：</p>	<p>9月10日(日) ～ 10月9日 (月・祝) [26日間]</p>	1,004	<p>当館はこの地の芸術的写真活動の重要性を鑑み、1989年から「写真収集5ヶ年計画」により収集を強化し、現在写真作品を841点収蔵している。大正末に米子最初のアマチュア写真団体「米子写真会」が誕生して以来、植田正治、岩宮武二、杵島隆ら郷土出身の写真家とともに「中国写真家集団」「銀龍社」「写真家集団エタン派」などが結成され、写真活動が盛んであった。本展ではそうした歴史を振り返り、郷土ゆかりの写真家とその関連作家作品を136点展示。</p> <p>会場：第2展示室 観覧料：一般330(270)円()内は団体及び割引料金 *大学生以下、70歳以上、障がいのある方(付添の方1名含む)及び米子市美術館後援会会員は無料</p>
<p>美術講演会 「米子市美術館写真コレクションについて」</p>	9月10日(日)	(52)	<p>演題：米子市美術館開館40周年記念・写真コレクションの形成「植田正治と戦前・戦後の仲間たち」 講師：葛谷典子氏 (島根県立美術館主任学芸員、元米子市美術館学芸員) 会場：米子市立図書館多目的研修室</p>
<p>ギャラリートーク</p>	<p>9月16日(土) 9月30日(土)</p>	(21)	<p>解説：青戸副館長兼主幹学芸員</p>
<p>共催展 共に生きるアート展 KANSEI 10 ～障がいのある人たちが創造するカタチ～</p> <p>主催：米子市 共催：米子市教育委員会</p>	<p>9月19日(火) ～ 9月25日(月) [6日間]</p>	826	<p>市内の障がい者施設に入通所している方による美術作品173点を展示。</p> <p>会場：第4展示室 観覧料：無料</p>
<p>第67回鳥取県美術展覧会(県展)</p> <p>主催：鳥取県、鳥取県教育委員会、 新日本海新聞社 共催：倉吉博物館、日南町美術館</p>	<p>10月14日(土) ～ 10月22日(日) 会期中無休 [9日間]</p>	2,134	<p>県民から公募した8部門(洋画、日本画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン)のうち入選作品414点を展示。 会場：全館 観覧料：無料 *初日、審査員による講評とギャラリートークを実施</p>
<p>開館40周年記念 コレクション企画展Ⅱ 版画編</p> <p>「奥深き表現世界」</p> <p>共催：米子市、米子市教育委員会</p> <p>関連事業：</p>	<p>10月29日(日) ～ 12月3日(日) [31日間]</p>	2,175	<p>開館当初より、収集方針の柱のひとつとしてコレクションの形成を進めている近現代を中心とした豊富な版画作品の中から凸版(木版など)・凹版(銅版など)・平版(石版)・孔版(シルクスクリーンなど)といった様々な技法による版画表現の魅力や奥深さを58点の作品により紹介した。</p> <p>会場：第2展示室 観覧料：一般330(270)円()内は団体及び割引料金 *大学生以下、70歳以上、障がいのある方(付添の方1名含む)及び米子市美術館後援会会員は無料</p> <p>*「文化の日」「関西文化の日」無料開放日 11/3、11/18、11/19の3日間 (期間中入場者数：745人)</p>
<p>ギャラリートーク (学芸員による展示解説)</p>	<p>11月11日(土) 11月25日(土)</p>	(18)	<p>解説：喜多村調整官兼主幹学芸員</p>
<p>開館40周年記念 コレクション企画展Ⅲ 洋画編</p> <p>「名品選」</p> <p>共催：米子市、米子市教育委員会</p> <p>関連事業：</p>	<p>1月21日(日) ～ 2月18日(日) [25日間]</p>	1,119	<p>郷土の芸術文化の復興普及と向上を願い結成された「麓人会」の発起人のひとりである香田勝太や笹鹿彪など郷土ゆかりの洋画家の作品や、地元の豊かな自然や風物を題材にした作品など35点の名品を選びすぐって紹介した。</p> <p>会場：第2展示室 観覧料：一般330(270)円()内は団体及び割引料金 *大学生以下、70歳以上、障がいのある方(付添の方1名含む)及び米子市美術館後援会会員は無料</p>
<p>ギャラリートーク</p>	<p>2月3日(土) 2月17日(土)</p>	(26)	<p>解説：喜多村調整官兼主幹学芸員</p>

事業名	開催日・実施期間	入場者・参加者数(人)	内 容
共催展 鳥取県アートミュージアム連携協議会 共同企画展 「DRAWING ADDICT!! ーハマる素描」 主催：鳥取県アートミュージアム連携協議会 共催：米子市、米子市教育委員会	1月21日(日) ～ 2月18日(日) [25日間]	(1,119)	鳥取県アートミュージアム連携協議会加盟館の所蔵作品および資料を中心として、素描とは何かという問いのもと、オールジャンルの作家が手がけたあらゆる種類の素描を展覧。素描の歴史を辿りながら、豊かな素描資料群の存在とあわせてその多様な魅力を紹介。当館、鳥取県立博物館、鳥取民藝美術館、倉吉博物館、日南町美術館、各館所蔵また関係者所蔵作品98点を展示。 会場：第1展示室 観覧料：一般330(270)円 ※コレクション企画展Ⅲと共通料金
開館40周年記念 コレクション企画展Ⅳ 日本画・書・工芸／彫刻編 「自然のすがた／作品は語る」 共催：米子市、米子市教育委員会 関連事業：	2月23日 (金・祝) ～ 3月24日(日) [28日間]	887	日本画・書・工芸編では、自然をモチーフとして描かれた作品に焦点を当て、自然が芸術という領域で作家の手によりどのように表現されてきたかを紹介。彫刻編では、郷土ゆかりの彫刻作家の具象作品を中心に、連続と受け継がれる郷土の彫刻の歴史をたどり、作品が語るストーリーとあわせて展覧した。 会場：第2展示室 観覧料：一般330(270)円 ()内は団体及び割引料金 *大学生以下、70歳以上、障がいのある方(付添の方1名含む)及び米子市美術館後援会会員は無料
ギャラリートーク	3月2日(土) 3月16日(土)	(22)	解説：青戸副館長兼主幹学芸員、前田学芸員
教育普及事業			
ミュージアムスクール	全4回		
テープでアート ちぎり絵で花火をつくろう 共催：米子市児童文化センター	8月7日(月)	34※	模造紙上にカラフルなテープを切り貼りし、花火のちぎり絵を制作した。 会場：米子市明道公民館
自然でつくってあそぼう 共催：米子市児童文化センター	10月8日(日)	24※	秋の風物詩である木の実やわらなどを使い、小物やミニぼうきを制作した。 会場：創作交流広場
アートな散歩 ～淀江の史跡を巡る～ 共催：上淀白鳳の丘展示館、 米子市立山陰歴史館	10月15日(日)	9※	会場：上淀白鳳の丘展示館周辺史跡 解説：笹尾副館長、井上統括学芸員補佐(上淀白鳳の丘展示館)、山本副館長(米子市立山陰歴史館)、喜多村調整官兼主幹学芸員(フレイル予防事業)
美術上映会 「謎の天才画家 ヒエロニムス・ボス」	3月3日(日)	28	ヒエロニムス・ボスの最高傑作にして最も異彩を放つ《快樂の園》。各界の知識人たちが本作に対峙しさまざまな角度から挑み、ボスと絵画の謎に迫る映像作品を上映。 会場：第3展示室 監督：ホセ・ルイス・ロペス＝リナレス 2016年/本編尺90分/日本語字幕 解説：前田学芸員
出前講座	全2回		
米子市美術館概要、特別共催展展示解説	5月19日(金)	33※	依頼元：米子市小学校教育研究会図画工作部 講師：中村館長、青戸副館長兼主幹学芸員 場所：米子市美術館、米子市立図書館研修室1
鳥取県立米子高等学校「産業社会と人間」	7月4日(火)	31※	依頼元・会場：鳥取県立米子高等学校 講師：青戸副館長兼主幹学芸員
米子高専連携事業 夏休み子ども体験教室 「ジオラマを作ろう！」 連携：米子高専、米子市淀江文化センター	8月22日(火)	15※	会場：米子市淀江文化センターイベントホール 講師：上田輝美氏(米子工業高等専門学校)
財団施設連携事業 米子市文化財団カルチャー・ フェスティバル2023 「コラージュアート」	9月23日 (土・祝)	フェス全体 (2,045)※ (84)※	当財団が管理・受託している各施設が集まり、特色を活かしたワークショップ等を実施した。美術館ブースでは過去の展覧会チラシを活用してコラージュ作品をつくるワークショップを実施。 会場：米子市文化ホール

事業名	開催日・実施期間	入場者・参加者数(人)	内容
おやこでアートじかん	県展を除く会期中 毎週月曜	-	未就学児とその保護者とが一緒に作品鑑賞する時間を会期中の毎週月曜日午前10時～正午に設定。
各種団体等との連携事業	随時	-	AIR475 2023報告会などに参加、令和6年度に向けての協力体制を整えた。また、鳥取県アートミュージアム連携協議会共同企画展として「DRAWING ADDICT!!—ハマる素描」を当館で開催。
図書館連携展示	特別共催展・特別企画展等 会期中	-	特別共催展「大広重展」及び特別企画展「井田幸昌展」、コレクション企画展Ⅰ写真編「芸術写真」の展覧会開催中に、隣接している米子市立図書館に関連図書コーナーを設置した。
カフェ連携事業	特別共催展・特別企画展 会期中	-	美術館喫茶室フルーツカフェサエキの協力により、展覧会コラボメニューなど考案、数量限定で販売。 大広重展「東海道五拾三次とある峠の茶屋のあんみつ」 井田幸昌展「パンタ・冷」
博物館実習受入	随時	-	1人受入（武蔵野美術大学1人）
インターンシップ受入	随時	-	1人受入（安田女子大学1人）
職場体験学習受入	随時	-	6人受入（米子市立湊山中学校、米子市立後藤ヶ丘中学校、米子北高等学校）
「総合的な学習」受入	11月9日(木)	-	7人受入（米子市立湊山中学校 総合的な学習インタビュー活動「地域を知ろう～地域の再生に向けて努力する人々と地域社会～」
サポーター（ボランティア）	通年	-	展覧会広報補助、展覧会関連事業補助等 31回活動（第9期1年目・31人登録）
アンケート	通年	-	展覧会・イベント来場者に配布し意見・要望等を回収、貸館時は1階ホールに一般入館者を対象に設置配布
収蔵品特別観覧	11月28日(火)	(3)	木山義喬『漫画四人書生』 原画の一部、デッサン10点
レファレンスサービス	通年	-	郷土ゆかりの作家、美術・芸術家、展覧会、美術・博物館情報など市民からのあらゆる問い合わせに真摯に対応し情報提供
ホームページによる情報提供	通年	-	展覧会情報、貸館展示情報、展示室空き状況、チケット取扱等随時更新
SNSによる情報発信	随時	-	Instagramを新たに開設し、X（旧Twitter）と併せて展覧会関連情報・イベント情報やトピックをリアルタイムで発信
資料収集事業			
郷土関係作家、次年度以降事業資料収集	通年	-	収蔵作家関係、地元作家、若手作家関係調査 次年度企画展等実施に向けた調査等
収蔵作品・資料データベース化	通年	-	収蔵品管理システム入力
収蔵図書データベース化	通年	-	収蔵品管理システム入力
収蔵品の修理・修復	随時	-	米子市所蔵及び寄託刀剣手入
収蔵品の貸出	随時	-	白日会へ香田勝太《芍薬》《藤図》2点貸出 「創立百周年記念展特別陳列展-白日会百年の軌跡-」 （国立新美術館）出品のため
収蔵品状況			洋画204点、日本画95点、素描294点、 彫刻35点、書11点、版画364点、写真841点、 工芸1点、資料78点 合計1,923点
その他事業			
展覧会図録等の売捌	通年	-	既刊展覧会図録や所蔵品目録などの販売
開館記念日イベント	6月17日(土)	-	米子市展会期中の当日来館者317人に収蔵作品ポストカードをプレゼント。また抽選で米子市美術館オリジナルグッズもプレゼント。
戸田海笛《喜怒哀楽の図》 ブロンズレリーフの点検・清掃	9月1日(金)	-	職員と職場体験学習生で清掃作業を実施
年報発行	12月発行	-	隔年報の第2号として令和3・4年度の2ヶ年分の美術館の活動報告をまとめた。
井上幸夫・英子コレクション点検等	6月9日(金) 9月12日(火) 12月14日(木) 3月8日(金)	-	アジア博物館に寄託されているアール・ヌーヴォー期のガラス工芸作品について定期点検を実施
主催事業入場者合計(人)		28,076	美術館外で実施したもの(※)及びギャラリートークなど入場者が重複しているもの()を除く

3 施設の利用状況

開館日数 314日

展示日数 256日

総入館者数 56,835人

貸館利用状況

室名	利用日数(日)	利用件数(件)	利用者数(人)	利用料(円)	備考
第1展示室	112	17	13,671	464,130	
第2展示室	34	4	5,289	326,620	
第3展示室	164	24	13,844	738,610	
第4展示室	115	17	14,388	1,072,240	
第5展示室	25	6	1,421	59,214	
合計	209	55	28,759	2,660,814	

※利用日数、利用件数、利用者数の合計は重複しているものを除く